

しつけと体罰

田淵 創^{*1}

問 題

しつけは、子どもと深い関わりを持ちながら行っていくものであるにもかかわらず、大人が、子どもの行動の側面や感情の側面で支配する形でのしつけが、頻繁に行われている。その手段として使われるのが、体罰である。一般に、体罰は子どもの心を深く傷つけるものと言われている。

1997年版子ども白書に掲載されていた『日本人と暴力』に関する研究のアンケート調査によると¹⁾、体罰を受けた時にどのように感じたかの問いに、男児の33.8%、女児の41.5%が「自分も悪いが、そこまですることはない」と答えているのをはじめ、「そんな相手は嫌いだ」「いうことなんてきいてやるものか」「このことは一生憶えていてやろう」「そんな相手は信用できない」など体罰に否定的な回答が多く、「自分が悪いので仕方がない」「怒るのは当然だ」などは少数であった。また「体罰の効果の評価」でも7割以上の親が「永続的な効果はなかった」と答えている。親自身もしつけにおいての体罰は、子どもにあまり効果がないと分かっている。さらに、多くの親が「危ないことをしたとき」「他人に迷惑をかけているとき」「うそをついているとき」には叩いてもやめさせるべきだと考えている（実際に叩いている？）のに対して、子どもの記憶ではそのようなときではなく、「親の言うことを聞かなかった」「口答えをした」「悪くないのに八つ当たりをされた」「いやがることを言った」ときに叩かれた記憶が残っているのである。すべて子どもの記憶が正しいとは言えないであろうが、何故たたかれたのか理解できない、親の感情だけを子どもにぶつけた体罰と感じている子どもが多いことが分かる。そのとき、子どもは恐れやショックを感じ、それと同時に親に対する信頼感を失ってゆくのである。体罰を用いるしつけの問題点が如実にでてくる結果と思われる。

この体罰が深刻化したのが虐待で、民間団体「子どもの防止センター」の「子ども虐待110番」への相談が91年の開設以来、96年1月で1万1000件を越えていることから、今、大変問題になっていることが分かる²⁾。しかし、虐待は「叩いてもしつけないと」という思いから始まることが多く、子どもの問題行動、発達の遅れ、夫婦不和、母親の周囲への不信感などで増幅され、繰り返し・執拗に・より暴力的に行われていくものである。したがってしつけという名の体罰と虐待に境界線を引くことはむづかしい。

一般的に家庭内でも体罰は許されないことではあるが、これを肯定的に考える人もいるのである。それは、自分自身が体罰をうけて育ってきた人に多く見られるといわれる。暴力にさらされて育った子ども（自らへの、夫から妻への）は自らの筋肉の力が増すと、周囲を暴力で支配しようとするために、体罰を次世代へと受け継がせてしまうのである。もう一度、しつけの本来の意味を考える必要性と親子の愛情と信頼関係の重要性を改めて考えることが、大切なのではないだろうか。

そこで、本論文は、女子学生を被調査者として、どの程度体罰が行われており、体罰によってどのように傷ついていたのか、子どもは親のどのような言動にもっとも傷つくのか、また体罰をどのように考えているのかなどの質問によって、親子関係、とくにしつけと体罰について検討することを目的としている。

方 法

調査対象 川崎医療福祉大学女子学生 100人
 調査日時 1997年10月
 調査方法 個別・質問紙調査
 調査内容 結果の項参照
 (この他、両親の養育態度、学校における体罰についても質問した)

*1 平安女学院短期大学 キリスト教科

(連絡先) 田淵 創 〒569-1092 高槻市南平台5-81-1 平安女学院短期大学

結 果

(1) あなたは母親にたたかれたことがありますか

よくたたかれた (1 2 3 4) 全くたたかれたことがない
 17人 28人 30人 25人
 17% 28% 30% 25%

1か2に○を付けた人のみお答えください

それはどういう時ですか

- | | |
|---------------|-------------------|
| ①悪いことをした時 | 14人 (31.1%) |
| ②親の言うことに逆らった時 | 8人 (17.8%) |
| ③生意気なことをした時 | 2人 (4.4%) |
| ④生活態度が悪かった時 | 4人 (8.9%) |
| ⑤その他 | 15人 (33.3%) |
| 例) ピアノなどの練習の時 | 行儀が悪い時 母親と喧嘩した時など |
| ⑥無回答 | 2人 (4.4%) |

そのときあなたはどのように感じましたか

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ①納得した | 10人 (22.2%) |
| ②しょうがないと思った | 6人 (13.3%) |
| ③怒りを感じた | 9人 (20.0%) |
| ④納得できなかった | 3人 (6.7%) |
| ⑤その他 | 16人 (35.6%) |
| 例) 頑張ろうと思った | もう話したくないと思った 泣きまくったなど |
| ⑥無回答 | 1人 (2.2%) |

(2) あなたは父親にたたかれたことがありますか

よくたたかれた (1 2 3 4) 全くたたかれたことがない
 10人 10人 24人 56人
 10% 10% 24% 56%

1か2に○を付けた人のみお答えください

それはどういう時ですか

- | | |
|---------------|---------------------|
| ①生活態度が悪かった時 | 3人 (15.0%) |
| ②親の言うことに逆らった時 | 3人 (15.0%) |
| ③悪いことをした時 | 5人 (25.0%) |
| ④やつあたりされた | 2人 (10.0%) |
| ⑤その他 | 7人 (35.0%) |
| 例) 夜眠れなくて泣いた時 | 遊んでいて、父がむきになった 喧嘩など |
| ⑥無回答 | |

そのときあなたはどのように感じましたか

- | | |
|----------------|-------------------|
| ①こわいと思った | 4人 (20.0%) |
| ②怒りを感じた | 7人 (35.0%) |
| ③しょうがない | 1人 (5.0%) |
| ④その他 | 7人 (35.0%) |
| 例) 殺してやりたいと思った | さっと気持ちが冷めた 反省したなど |
| ⑥無回答 | 1人 (5.0%) |

- (3) あなたは自分が親になったとき、子供をたたくと思いますか
絶対なたたくと思う (1 2 3 4) 絶対なたたかないと思う
- | | | | | |
|--|-----|-----|-----|-----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | 21人 | 33人 | 36人 | 10人 |
| | 21% | 33% | 36% | 10% |

	子どもを		計
	たたくとおもう	絶対なたたかない	
自分が母親からたたかれた	31人 (68.9%)	14人 (31.1%)	45人
たたかれなかった	23人 (41.8%)	32人 (58.2%)	55人

$$(\chi^2 = 7.302 \quad P=0.007)$$

- (4) あなたは家庭でのしつけや体罰でストレスを感じたり、体の不調を感じたことがありましたか
よく感じていた (1 2 3 4) 全く感じたことがない
- | | | | | |
|--|----|-----|-----|-----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | 9人 | 11人 | 34人 | 46人 |
| | 9% | 11% | 34% | 46% |

- (5) あなたが親にされて嫌だったこと、親に言われて嫌だったことはどのようなことでしたか

1) 行動面 (体罰も含む)

- | | |
|--------------|--------------------------|
| ①たたく | 6人 (6.0%) |
| ②きょうだいの比較・差別 | 8人 (8.0%) |
| ③大人どおしの喧嘩 | 3人 (3.0%) |
| ④かまいすぎ | 3人 (3.0%) |
| ⑤その他 | 17人 (17.0%) |
| 例) 勝手に部屋に入る | 無視 |
| ⑥特になし | 誕生日を忘れられる
63人 (63.0%) |

2) 言葉

- | | | |
|-----------------|-------------------------------|------|
| ①勉強しなさい | 6人 (6.1%) | |
| ②きょうだい・他人との比較言葉 | 10人 (10.1%) | |
| ③命令口調 | 2人 (2.0%) | |
| ④否定的な言葉 | 6人 (6.1%) | |
| ⑤禁止口調 | 2人 (2.0%) | |
| ⑥その他 | 19人 (19.2%) | |
| 例) 出ていけ | 子どもは親の鏡というから、お母さんが悪いからこうなったのね | 過大評価 |
| ⑦特になし | 54人 (54.6%) | |

- (6) 今、あなたは親になんでも相談することができますか

- よくする (1 2 3 4) 全くしない
- | | | | | |
|--|-----|-----|-----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | 25人 | 48人 | 22人 | 5人 |
| | 25% | 48% | 22% | 5% |

- (7) 今、あなたは親からの愛情を感じていますか

- とても感じる (1 2 3 4) 全く感じない
- | | | | | |
|--|-----|-----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | 60人 | 31人 | 9人 | 0人 |
| | 60% | 31% | 9% | 0% |

(8) 今、あなたの家庭はあなたにとって、居心地の良い場所ですか

とても良い (1 2 3 4) 全く良くない

52人 34人 11人 3人

52% 34% 11% 3%

考 察

91%が親からの愛情を感じており、86%が家庭が居心地がいいと答えている被調査者の集団から体罰や親の言動からの傷を見いだすことは不可能であった。児童虐待などの悲惨な親子関係の文献に接することの多い筆者にとっては、この良好な親子関係はある面ほっとする結果でもある。

実際、45%の学生が母親から体罰を受けていたと答えている。しかし、「自分が悪いことをした」「親のいうことを聞かなかった」「生活態度が悪い」という理由から「納得した」「しょうがない」「頑張ろう」と感じた学生が半数近くを占めていた。

ただ、父親からの体罰は、20%と母親から比べれば少なかったが、ほとんど同じような理由にもかかわらず、「怒りを感じた」「恐怖をいだいた」「殺してやりたい」などの否定的な感情が強いことが際だっている。

「自分が親になったとき、子どもをたたくと思いますか」の問いに対して54%の人がたたくだらうと答えている。この数字は自分が体罰を受けたとする45%を上回った。(ただし有意な差ではない) これは、「家庭でのしつけや体罰でストレスを感じたり、体の不調を感じたこと」があったとする人がわずか20%であり、「親にされて嫌だったこと」が実際の体罰をよりも、自分という存在を認めてもらえていないことや、きょうだいや他人との比較することなどの何気ない大人の言動や、親の過保護・過期待(斎藤は親の価値観のおしつけとともにこれらも親の暴力だと指摘している³⁾)であったことなどの結果から推測して、親からの体罰をあまり否定的に捉えていな

いので、子どものしつけに体罰は必要と考えるようになったと思われる。

特に、自分が体罰を受けた場合には有意に多く子どもを叩くとしている。さらには、教師から体罰を受けた人ほど、体罰は必要であると考えているのである。(中学時代の先生から体罰を受けた36人中一体罰は必要21人 受けなかった64人中一体罰は必要13人 $\chi^2 = 17.842$ $P=0.0001$) ここらあたりに体罰がなくなる、虐待が連鎖するといわれる兆候がうかがえる。筆者は母親の養育態度は自分が母親から受けた養育にもっとも影響されることを調査結果から指摘しているが⁴⁾、おそらく、子育ての中で、子どものため、子どもをしつけなければとの思いから体罰が使用されることになるのだろうが、その功罪・影響を今一度よく考えてほしいものである。

野田は、体罰を用いて子どもを育てるいわゆる「厳しい親」からは自立した、社会と調和して生きる大人は育たないと述べている⁵⁾。そして「優しくそしてきっぱりと (kind and firm)」のアドラー心理学の育児を提言している。過干渉(過保護 筆者)にならないために課題の分離を行い、感情的な対立を徹底的避けて話し合う(=子どもの話を聞く)ことの必要性を説いている。きちんと子どもと向き合い、子どもが自分の存在を認識でき、居場所を感じさせることが出来るようなしつけを期待したいものである。

本調査にあたっては、川崎医療福祉大学医療福祉学科平成9年度卒業生、吉田尚代さんの協力を得たことを記して感謝する。

文 献

- 1) 高田公子(1997) 続く体罰の深刻さ。日本子どもを守る会、子ども白書・1997年版、株式会社草土文化、東京、pp273-273.
- 2) 集英社編(1997) イミダス新語ファイル『情報・知識 Imidas 1997』。pp1334-1334.
- 3) 斎藤 学(1998) 家族の闇をさぐる。日本放送協会、pp27-27.
- 4) 田淵 創(1993) 母親の養育態度に影響を及ぼす要因の検討(II)。川崎医療福祉学会誌、3(2)、35-45.
- 5) 野田俊作(1999) 甘い親・厳しい親・優しい親。児童心理、53(5)、1-9.

(平成11年5月12日受理)

Discipline and Physical Punishment

Hajime TABUCHI

(Accepted May 12, 1999)

Key words : DISCIPLINE, PHYSICAL PUNISHMENT, QUESTIONNAIRE INVESTIGATION

Correspondence to : Hajime TABUCHI

Heian Jogakuinn St. Agnes' School

Department of Christian Studies

Takatsuki, 569-1092, Japan

(Kawasaki Journal of Medical Welfare Vol.9, No.1, 1999 123-127)